

災害時の障がい者の 〈障がい別〉困る ポイント・問題点

視覚障がい

テレビのテロップ等での周囲の災害情報が分からず、対応が遅れる場合があります。体育館など大勢の人や物がある避難所では、1人で行動することが困難になります。視覚障害は症状がさまざま。どのようにサポートすればいいかご本人の要望を確認してください。

聴覚障がい

災害時は日頃使っているファックス、電子メール、字幕付きテレビ番組などの情報手段が使えなくなります。音声による災害情報が得られないと対応が遅れることがあります。避難所での放送も聞こえないため、救難物資などさまざまなサービスも受けにくいことが多々あります。

身体障がい

災害時は室内でも野外でも物が倒れたり、路面の破損などで車イスでの移動が困難になります。障がいの部位や程度によって、災害時の緊張で、四肢が硬直したり、震えて身動きができなくなることもあります。

知的障がい

知的障がいがあることが周囲に認識されにくく、災害状況や救援の説明をされても理解できない場合があります。日頃と異なる周辺の状況に情緒不安定やパニックになることもあります。本人に声をかけるときは、やさしく落ち着いた声で「具体的に」「はっきりと」話してください。

精神障がい

他者と交流が苦手な人が多く、災害情報などの入手が遅れがちになります。状況や環境の変化に柔軟に対応することも苦手で、緊急の判断が遅れることがあります。考えがまとまらなると、調子を崩したり、行動がストップしてしまうこともあります。

※他にも発達障害、高次脳機能障害など様々な障がいがあります。

参考文献：調布市「障がいのある方への災害時支援ガイド」より

「防災まちあるきプログラム」の相談は
市民活動支援センターへ ☎042-443-1220



災害時は高齢者中心の福祉避難所となる下石原地域福祉センターに立ち寄り



コンビニで「災害時帰宅支援ステーション」のステッカー発見。いざという時に頼れることを知った

消火器を発見!

京王線の駐車場脇で消火器を発見。市内には約750本の街頭消火器があります。今回のルートではこの1本を確認



防災倉庫を見学!

避難所となる多摩川小学校に到着。避難所はどこへ行っても可。ただし、自主避難、自主備蓄が基本で、最初の3日は各自がなるべく家で過ごすのが目標です



地区協議会の田中会長から、防災倉庫の説明を受ける。田中会長や地域の方々の災害の危機意識の高さに、参加した障がい者からは逆に「自治会に入り日頃から地域の方々と交流しておくことが大切」との声があがりました



防災訓練会場に到着!

一緒にまちあるきをした地元・多摩川地区協議会の方々からは、「初めて障害のある方の生の声を聞き、交流をし、地域の助け合いについて深く考える機会になった」と感想をいただきました。「まちあるき」が新たな出会いと発見になりました

GOAL

日頃の備えが大切!

備えておきたいこと。知っていて欲しいこと。

左のコラムで、障がい別に、災害時のどんなことに困るかをまとめてみました。いずれも災害時は、情報の入手が遅れたり、判断が遅れたり、行動が制限されたり、緩慢になります。そこで日頃から個人の状況を書き込んだ「ヘルプカード」を携帯したり、家族や支援者、利用施設などと災害時の対応をしっかりと話し合い、自治会や近隣の方々などに自分の存在や障がいを知っておいてもらうことが大切です。一般の方は、いざという時は、障がいがあると思う方がヘルプカードを持っていないかご確認ください。事前に地域で「防災まち歩き」を実施しておくことは、避難場所や地域の危険な場所を知るだけでなく、障がい者や高齢者、子どもなどの災害弱者の状況を把握し、地域のコミュニケーションを深めることになります。ぜひ日頃からの理解といざという時の支援をよろしくお願い致します。



START

特集

「防災」を考えよう

いざという時どうすればいいの? どう支援するの?

こちらの健康支援センターで約30分の座学。災害弱者にあたる障害者、子ども(親子)、外国人などを含む105人が参加。10チームに分かれて街を歩きました



スタート時に1日行動をともにするメンバーと打ち合わせ。このチームは、高次脳機能障害や知的障害のある当事者、全国で災害支援をするNPOスタッフ、市民活動支援センターのスタッフなど10人

AEDの案内板と消火栓を発見!



調布南高校前に消火栓と、AEDが校内に設置しているとの案内板がありました

京王多摩川駅前の
カフェ大好きで
ひと休み



飲み物の提供を受けながら施設長から、3・11の時の大変な状況を伺いました

歩道がなくなった!



南高校前で歩道がなくなり車イス利用者はやむなくバックしてへ車道へ出ることに。こんなところもチェック

地震などの災害が起こるとまちはどうなるのか。どの道を通ってどこに逃げるのか。障がい者にはどんな問題が生じるのか。そんなことを考える「防災まちあるき」という障がい者も参加するイベントが行われました。これは9月3日に多摩川で行われた「東京都・調布市合同総合防災訓練」と同時開催されたもの。「障がい者」と「防災」を考えるいいイベントとなりました。